

# 国際バカロレア (IB) ディプロマプログラム (DP) 科目概要

DPの「コア」：「課題論文 (EE)」(「ワールドスタディーズ」も含む)

2018年第1回試験

IBディプロマプログラム (DP: Diploma Programme) は、綿密に構成され、高い学業レベルを要求する一方で、教育的にバランスのとれたプログラムです。16歳から19歳までの生徒を対象として、大学での学問やその後の生涯で成功できる人間になるための素養を養います。DPは、知識豊かで探究心に富み、思いやりと共感する心をもつ人間の育成、また、多様な文化の理解と開かれた心の育成に力を入れており、さまざまな視点を尊重し評価するために必要な態度を育むことを目指しています。DPの「指導のアプローチ」と「学習のアプローチ」(ATL: approaches to learning) は、熟慮されたストラテジーやスキル、態度として、指導や学習の場に浸透しています。DPでは、思考スキル、リサーチスキル、社会性スキル、自己管理スキル、コミュニケーションスキルという5つのATLカテゴリーのスキルを発達させます。

幅広く深い知識と理解を得られるようにするために、生徒は、1) 自分が最も得意とする言語、2) 付加言語、3) 社会科学、4) 理科、5) 数学、6) 芸術の6グループから6科目を選択する必要があります。

ただし、芸術から1科目を選択する代わりに、他の5つのグループから2つ目の科目を選択することもできます。選択した科目のうち最低3科目(最大4科目)を上級レベル(HL: higher level)(推奨授業時間: 240時間)、その他を標準レベル(SL: standard level)(推奨授業時間: 150時間)で履修します。これらに加えて、「課題論文」(EE: extended essay)、「知の理論」(TOK: theory of knowledge)、「創造性・活動・奉仕」(CAS: creativity, activity, service)の3つの「コア」要素があります。「コア」科目は必修で、DPの理念の中核を成すものです。

DPの科目概要では、コースを構成する4つの主要要素について説明します。

- I. コースの説明とねらい
- II. EEのプロセスの概要

- III. 評価のモデル
- IV. EEのトピックのサンプル



## I. コースの説明とねらい

EEは、必須の外部評価課題であり、生徒が自分で選んだトピックについて自主的にリサーチを進め、その成果を正式な学術論文の形で発表します。そのねらいは、個人的な研究への取り組みを通じて、高いレベルのリサーチスキル、記述力、創造性を育成し、知的発見を促すことです。研究成果は正式な書式に構成された4000語(日本語の場合は8000字)以内の論文にまとめ、論理的かつ一貫性のある適切な方法でアイデアや研究結果を表現します。

生徒は、研究と執筆のプロセス全体にわたって、担当の指導教員(当該校の教師)による指導を受けます。すべての生徒が、指導教員と3回にわたる振り返りセッションを行わなければならない、そのうち最後の振り返りは、論文の執筆後に口頭試問という形で実施されます。

EEのトピックはDPの認定科目から選ぶことができ、通常は、生徒がDPで履修した6つの科目のいずれかを選択します。または、「ワールドスタディーズ」を選択することもできます。「ワールドスタディーズ」を選択した場合は、IBの2つの学問領域を使って、グローバルな意義をもつ現代の問題を学際的に深く掘り下げて研究します。

EEのねらいは、次のような機会を生徒にもたらすことにあります。

- 知的な主体性と厳密さをもち、独立して研究に取り組む。
- リサーチスキル、思考スキル、自己管理スキル、コミュニケーションスキルを養う。
- 研究と執筆のプロセスを通じて何を学んだかを振り返る。

## II. EEのプロセスの概要

### EEのプロセス

#### 研究のプロセス

1. DPの認定科目を選択する。
2. トピックを選択する。
3. 研究を始める前に文献をある程度下読みする。
4. 的を絞った研究課題(リサーチクエスト)を設定する。
5. 研究と執筆のプロセスを計画する。
6. 論文の構成(見出し)を決める。構成や見出しは、研究が進むにつれ変わる可能性があります。
7. 研究を行う。

#### 執筆と正式な形式

提出用の最終稿は、以下の要素を含む必要があります。

- 表紙ページ
- 目次ページ
- 序論
- 本論
- 結論
- 参考文献と参考文献目録

論文の長さは、序論、本論、結論、および引用部分を含めて4000語(日本語の場合は8000字)以下でなければなりません。

### 振り返りのプロセス

指導プロセスの一環として、すべての生徒は、指導教員と3回にわたる振り返りセッションを行わなければなりません。これらのセッションは、EEおよび研究プロセスの正式な評価の一部とみなされます。セッションの目的は、研究プロセスへの取り組みを振り返る機会を生徒にもたらすことにあります。生徒が自分の選択の有効性を考察して、アイデアをあらためて吟味し、変更が必要かどうかを判断できるようにすることを意図しています。最後の振り返りは、口頭試問です。

口頭試問とは、生徒と指導教員の間で行われる短い面接（10～15分間）のことです。これは、プロセスの締めくくりとして必ず実施しなければなりません。口頭試問は、次の機会をもたらします。

- 剽窃やその他の不正行為がなかったことを確認する。
- 達成したこと、難しかったことについて振り返る。
- 何を学んだかを振り返る。
- 指導教員が報告欄に記入するための情報を得る。

## III. 評価のモデル

EEは、「ワールドスタディーズ」の場合も含め、共通の評価規準を用いて評価され、選択した科目にふさわしい方法で解釈されます。生徒には、以下のことが期待されています。

- トピックを選択した理由を、論理的にかつ一貫性をもって説明する。
- そのトピックについて、これまでに書かれた文献を確認する。
- 明確な研究課題を設定する。
- 研究課題を探究するために使用した研究方法を具体的に説明する。
- 研究課題に答えるための文献調査と独自の研究に基づいて、合理的な解釈と結論を導く。
- 研究と執筆のプロセスを通じて何を学んだかを振り返る。

## 評価の概要

評価規準	説明
焦点と方法	トピック、研究課題、方法論を明確に述べている。
知識と理解	研究課題の探究に使用した科目や学問領域に関連性のある研究を行っている。また、適切な用語と概念を使って知識と理解を示している。
批判的思考 (クリティカルシンキング)	批判的思考スキルを使って、自分の研究を分析し評価している。
形式	学術論文として期待される標準的な形式に従っている。
取り組み	研究の焦点と研究プロセスに対して主体的に取り組んだ。

EEの評点は、TOKの評点とともに、DPの総合点に組み込まれます。EEとTOKの両方のパフォーマンスに基づいて、最大3点が授与されます。

## IV. EEのトピックのサンプル

- 排気管の長さ、それが発する音の周波数との間にはどのような関係があるか。
- 1948年のイタリア総選挙におけるキリスト教民主党の勝利は、冷戦の緊張にどの程度影響されていたか。
- フリードリヒ・デュレンマットの戯曲『老貴婦人の訪問 (Der Besuch der alten Dame)』における色の使用は、作者のメッセージを伝えるという点でどれだけ効果的か。

IBについて：IBは、過去50年以上にわたり、質の高いチャレンジに満ちた教育プログラムとしての定評を築いてきました。国際的な視野をもって21世紀の現実の課題に対応することで、より良い、より平和な世界の創造に貢献していくことのできる若者を育成しています。

DPについての詳細は、IBのウェブサイト (<http://www.ibo.org/diploma/>) でご覧いただけます。また、『指導の手引き』の完全版は、IBの大学・行政機関向け公式システムであるプログラム・リソース・センターからアクセスできるほか、IBストア (<http://store.ibo.org>) でご購入いただけます。

DPが大学での成功の素地づくりにもどのように貢献するかについてはIBのウェブサイト ([www.ibo.org/recognition](http://www.ibo.org/recognition)) をご覧いただくか、メール ([recognition@ibo.org](mailto:recognition@ibo.org)) にてお問合せください。